

平成25年度の学校評価目標

1 建学の精神

不言実行 あてになる人間

2 重点目標

ア 私学は生徒募集が生命線。私学協会の平均充足率を下回らないよう、渉外活動に努める。

イ 普通科では進学実績を図るためのプロジェクトによる、英語の「学び直しトレーニング」の導入、英検の資格習得、一貫コースでの中部大学併設校推薦希望者の他大学受験等々、具体的推進案が実行に移された。本年度はさらにこれを推進する。

ウ 機械電気システム科はジュニアマイスター資格取得者が順調に増加してきた、さらに資格取得者増を目指すための取り組みを展開する。

エ 「いじめ」は、物事を深く考えず、また「思いやりに欠ける」行動によって引き起こされる。いじめを許さない、起こさせない、「安心・安全」な学校づくりを目指す。

オ 生徒の満足度の向上や保護者の評価への対応も推進する。特に授業に対する生徒の満足度を高めていかねばならない。教える側としては分かる授業の工夫、評価・評定の公平化、受ける側として授業規律や授業を受ける姿勢の改善を図る。

カ 部活動、学校行事をマンネリ化、硬直化をさせないため、毎年見直しを行い、生徒にとって学校生活を印象付け感動を与えられる企画を考える。

	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外部	(1) 募集定員を確保する努力。 (2) 中部大学との「高大一貫教育」の発信、広報活動の一層の強化。 (3) 建学の精神「不言実行、あてになる人間」の具現化。	(1) 各コースの人数確保するため、教育力の高さをアピールし、本校の特色を積極的に広報する。 (2) 本学園の教育制度を活用し、高大一貫教育の推進と女子生徒数を増やす方策を模索検討する。 (3) 特待生、スポーツ奨学生を含めた成績優秀者の募集に努め定員の確保をする。 (4) 学習・部活動や学校行事等、元気で魅力ある学校をPRする。 (5) 新制服のPRに努める。	(1) 生徒募集の在り方として、全教職員による生徒募集意識をもつ必要がある。 (2) 学校見学では中学生とその保護者が楽しい雰囲気、学校生活や進路内容が十分理解できるようにする。 (3) 地域への貢献は継続的かつ積極的に実施。そのためユネスコスクールとしての活動や、文化発表会等を通して、近隣市町や日進市市民から信頼される学校作りに努め、広報活動に力を入れていく。
総務部	(1) 災害発生時の対応の強化。 (2) PTA校内美化に協力。 (3) 総務部の役割の共有化。	(1) 大規模災害発生時のマニュアルの整備をする。 (2) 一年間とおして花の咲く学校となるようにする。 (3) 仕事の固定化を避け、ローテーション化する。	(1) 緊急避難速報型の訓練の模索検討をする。 (2) 樹木の種類の選定と植樹を考える。 (3) 担当者をローテーション化することにより、新たな視点で各行事が企画できるようにする。
教務部	(1) よりよい授業の確立。 (2) 新たな授業方法の検討。 (3) 教務システムの使用状況の確認。	(1) 4月の授業開始日より学習規律週間を実施し、6月と10月に公開授業週間を設定する。 (2) 生徒の学習への関心や意欲を向上させる目的で情報機器を活用した授業の可能性を探る。 (3) 様々なデータの保管・管理、もしくはデータの入力の見直し、検討。	(1) 公開授業週間の際には保護者や中部大学関係者の参加を促す。 (2) 電子黒板やデジタル教科書などの情報機器を活用した授業の可能性を検討する。 (3) 調査書や指導要録等の打ち出しなどにおける問題点を追求して改善する。教務システムに問題があれば、その都度問題点を追求し改善に向けて取り組む。
生徒指導部	生徒の健全な成長を促し、将来のために自己指導能力を育てる。 (1) 身だしなみ指導の徹底と規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める。	(1) 問題行動の抑止と発生後の初期対応に努める。 (2) 職員による校外指導並びに啓発活動により、交通安全教育、交通マナー向上に努める。 (3) いじめによる問題行動の撲滅のため迅速な指導姿勢を持って臨む。	(1) 問題の早期発見に努め、全職員の指導方針・体制を確立し指導にあたる。 (2) PTAによる街頭指導を強化する。各種講習会を実施し、交通安全指導の充実を図る。 (3) いじめ、迷惑行為、授業妨害など早期発見と適切な対応をする。

	重点目標	具体的方策	留意事項
特活部	(1) 全員参加型の生徒会行事を推進し満足度を高める。 (2) 部活動支援をする。 (3) 教育相談を充実推進する。	(1) 文化祭を早め7月中旬に準備期間を設ける。クラス参加を年度当初から推奨する。 (2) 新規部活動、顧問部員数に応じた適正な予算編成をする。 (3) 本校に無い種目で高体連等の大会に参加する生徒を支援する。 (4) カウンセラーと連絡を密にする。	(1) 事前マニュアルとアンケートを活用し、参加意識、満足度を高める。 (2) 適正な部活動の推進に関する助言を心掛ける。 (3) 健康相談・教育相談の連絡を密にする。
研修部	(1) 研修会の充実。 (2) 現職教育の模索。 (3) 各種調査を実施。	(1) 初任者研修会、初任者研究授業の実施。 (2) 講演会を実施する。 (3) 学校生活意識調査・学校評価(保護者対象)の実施と分析。	(1) 渉外部実施の私立学校展への参加。 (2) 時宜を得た講演会を実施する。必要であれば複数回行う。 (3) 調査や評価を学級と全体の比較ができる等、集計データの提供の仕方を工夫する。
進路指導部	自分の興味や適正を早期に自覚させ、主体的に自らの将来の目標を設定し進路を確保する。	(1) 進路未定者を出さない。 (2) 中部大学への進学を確保する。 (3) 中部大学100名、就職一次合格80%、国公立大学10名、進路未定者0名	(1) 夏季進学補習の後期日程を新設する。 (2) 中部大学併設校推薦について100名以を目標とする。
普通科	3カ年学習計画に基づく学習・進路指導の充実を図る。	(1) 中部大学進学者を増やすため、学習に対する達成感を持たせ、学習意欲の向上を図る。 (2) 高大一貫の価値を高めていくため、進路実績を意識した指導を展開し、学級全体が学習・規律に前向きな学習環境をつくる。	(1) 中部大学併設校推薦の併願受験生に模擬試験を積極的に受験させる。 (2) 科全体の協力体制を確立し、英語検定受験を義務化する。英検受験時期を受験進度にリンクさせる。 (3) 学校全体の学力実態を把握し、基礎学力向上へつなげる。(マナトレの導入)
機械電気システム科	(1) ジュニアマイスター顕彰取得者増を目指す取り組みの方法の確立。 (2) 3級技能士「電気機器組み立て－シーケンス制御作業」受験への準備。	(1) 機械電気システム科3年間で取り組む検定計画表はほぼ固まった。 (2) 3級技能士「電気機器組み立て－シーケンス制御作業」受験を目指す。	(1) 対策テキストとして過去問の整理を進めつつ誰でも使用可能な電子データ化を図る。 (2) 今後は検定種目の取捨選択を行いその合格率を上げていく。 (3) 実習装置の整備とテキストの準備を図る。
1年生	(1) 高校生として基本的な生活習慣を身につけさせる。 (2) 資格取得や進路目標など短期的・長期的な目標を持たせる。 (3) 各科・各コースの特徴を生かした取り組みを行う。	(1) オリエンテーション合宿・4月のHRを有効に活用する。 (2) 学習習慣を身につけさせる。 (3) 資格取得(英検やS科の各種検定)・補習・部活動・自習室での学習等様々な機会を捉えて継続的に指導する。	(1) 関係部署との連携を密にする。 (2) 話を聞く姿勢の定着・課題の提出を厳守する意識を持たせる。早期に学習の核となる生徒を見出し指導する。 (3) 生徒の個々の状況に合わせて適切な指導を行う。
2年生	(1) 学内の連携を密にし、問題行動の早期発見に努める。 (2) 学習環境と進路に合わせた学習指導の充実を図る。 (3) 各コースの特長を活かした取り組み。	(1) 自ら取り組む「自己指導力」の向上に努める。 (2) 進路指導を充実させ、自己の進路に関心を持たせる。 (3) 資格の取得や補習並びに部活動参加の勧め、自習室の活用なし目的意識を明確化と学習に積極的に取り組む姿勢を養う。	(1) 学年団・教科担任及び関係分掌の連携を図る。 (2) 家庭学習も含めて学習習慣の確立を図るとともに現実的な進路指導をする。 (3) 基礎学習の定着を図るために粘り強く継続的に指導する。
3年生	(1) 進路決定の学年であり、落ち着いた学習姿勢を徹底する。 (2) 全員の希望進路の実現を目指す。	(1) 身だしなみに対して自ら気をつける意識を高め、建設的な考えを持ち、自己と素直に向き合う。 (2) 目的に応じた進路選択ができるよう指導する。	(1) 進路別のガイダンスを実施するなど進路について具体的に現実的な指導を行う。 (2) 進路に関する適切な情報を提供する。 (3) 進路決定に向けてと進路決定後における生活及び学習態度や姿勢に細やかな指導に心掛ける。